

鹿島神宮の流鏝馬祭で射手が鏝矢  
を放ち、見事に的中＝鹿嶋市宮中



## 天下太平願い矢放つ

### 鹿島神宮で流鏝馬祭

鹿嶋市宮中の鹿島神宮で1日、流鏝馬祭が行われ、平安時代の装束姿の男女9人の射手たちが、疾走する馬の上から次々と的をめがけて弓を射た。古式ゆかしく迫力もある光景を大勢の見物客らが楽しんだ。

同神宮の流鏝馬祭は、五穀豊穰と天下太平を祈り、毎年5月1日に行われる。

かつて地元の城主だった鹿島家の第35代当主、鹿島泰明さんが「惣大行事家」となり、倭式騎馬会(本部・東京、森顕会長)が勇壮な武芸の妙技を奉納した。

同騎馬会の奉納では奥参

道に設けられた直線約200mの馬場を男性6人、女性3人の射手が操る馬7頭が2回ずつ疾走した。的を3カ所に置き、射手たちは馬を駆りながら的を狙い、気合を込めて弓を引いて鏝矢を放った。

馬場脇には大勢の見物客が詰め掛けた。馬が地面を蹴る激しい足音を立てて近づき、鏝矢が見事に的を射抜くと「おおーっ」と歓声が上がった。

同市厨の主婦、山口淳子さん(38)は「初めて見物した。静かな場所で、こんな勇壮なお祭りがあるのが面白い」と話した。

(佐川友一)

